

山縣記念財団からのお知らせ

当財団は、1940年（昭和15年）6月3日、辰馬汽船（のちに新日本汽船、山下新日本汽船、ナビックスラインを経て商船三井となる）の社長であった山縣勝見によって、「財団法人 辰馬海事記念財団」として設立され、2020年に80周年の節目を迎えました。その後名称変更により、辰馬海事文化研究所、海事文化研究所そして1964年（昭和39年）「山縣記念財団」となりました。また、「新公益法人制度改革」の施策の中で、2012年4月1日からは、内閣府から認可を受け、「一般財団法人 山縣記念財団」として、わが国の海事交通文化の発展に貢献するために、次の3つの事業を柱として、活動しております。

1. 学術研究誌『海事交通研究』（年報）及び海事交通文化の研究及び普及・発展に資する出版物の刊行と関係先への送付
 2. 海事交通文化の研究及び普及・発展に貢献された方々への「山縣勝見賞」（著作賞、論文賞、功労賞、特別賞）の授与
 3. 海事交通文化の研究及び普及・発展に貢献する事業への助成・協力
- つきましては、これら3つの事業について、2025年度分を公募することになりましたので、次ページ以降をご参照の上、ご応募をお待ちしております。

いずれにつきましても、申請書などの送付先、問合せ先は下記の通りです。
（申請書のExcel／Wordフォームが必要な方は、メールにてご連絡下さい。）

【申請書などの送付先、問合せ先】

一般財団法人 山縣記念財団

〒104-0032 東京都中央区八丁堀 1-4-5 川村八重洲ビル 2F

TEL：03-3552-6310 FAX：03-3552-6311

E-mail: zaidan@yamagata.email.ne.jp

ホームページ：http://www.ymf.or.jp/

1. 『海事交通研究』第74集への掲載論文等募集のご案内

当財団は、『海事交通研究』を1965年（昭和40年）11月に創刊し、海運とその周辺分野に関する最新の研究成果を発表して参りました。

今後とも、本誌は、海事社会、海事産業における現代的な課題のみならず、時代を超えた普遍的な事象を取り上げ、将来的な方向性を捉えて世に問う役割を担っていきたいと考えています。

2025年12月発行予定の第74集につきましても、以下要領にて掲載論文等の募集を致しますので、奮ってご応募くださいますようお願い申し上げます。

なお、本件に関する最新情報については、当財団ホームページでご確認ください。

・・・・・・・・募集要領・・・・・・・・

1. 募集対象：海運、物流、港湾、造船、海洋環境、海法、海上保険及びその周辺分野をテーマとする
 - (1) 論文（査読の対象）、または、
 - (2) 海事関連レポート（調査/活動報告、体験レポート、現地レポート等。査読の対象とはなりません）上記分野であれば、テーマは自由といたします。
2. 応募資格者：どなたでも応募出来ます。
3. 応募の条件：
 - (1) 未発表のもの（二重投稿・剽窃・自己剽窃とみなされる論文等の投稿は不可）。他誌/媒体にすでに掲載された文章を一定範囲で再掲される場合は必ずご相談ください。著書や新聞等の文献から引用した場合及び発想を転用した場合は、出典（著者名・タイトル・発行所名・発行年月等）を明記（但し、ウェブサイト上の資料を利用した場合は、URLとアクセスした日付を明記）してください。
 - (2) 原則日本語としますが、相談に応じます。共著も可。
4. 容量：A4版縦置き横書き（40字×40行）で最大14ページ（冒頭にアブストラクト（要旨）を5～10行、キーワードを5個以内で記載し、目次・図表・注・参考文献等も含む）。
5. 応募・審査手順：
 - (1) 論文等執筆の申請をされる方は「年報掲載論文等執筆申請書」（以下「申請書」という）を2025年1月6日（月）～2月28日（金）の間に、メール・郵便（2月28日消印まで有効）又はFAXによりお送りください。（本誌巻末の「申請書」書式を切取線から切り取り、ご使用ください。申請書のWordフォームがお入用の方はご連絡ください。）
 - (2) 当財団の「年報掲載作品編集委員会」（以下「編集委員会」という）が提出された

申請書を審査し、論文等の執筆を応諾するかどうかを3月末までにご連絡致します。
(3) 原稿提出は2025年7月20日(日)23時59分を財団着信時刻の締切として、メールに添付して応募することとします。

6. 提出論文の年報への掲載可否については、査読(注)を経て、編集委員会での審議にて決定次第お知らせします。(論文以外の形式で執筆された作品は査読の対象外です)。発行は、2025年12月上～中旬の予定です。査読を経た論文には、《研究論文(査読付き)》と明記します。

(注) 査読は、研究論文として応募されたものを対象に、大学または大学に準ずる教育研究機関において教育研究の経験のある者、および民間企業等で実務経験のある者の中で、査読対象の論文の研究分野に精通している者によって行い、①新規性・独創性、②有用性、③信頼性・公平性・客観性、④首尾一貫性、課題達成度、具体的提案、⑤読みやすさを評価項目とします。

7. 原稿料：年報に掲載された論文等については当財団所定の料率にて原稿料をお支払いします。
- 8 年報掲載論文等執筆申請書・論文等の提出先・問合せ先：本誌 p.83 をご覧ください。

以 上

2. 「2025年 山縣勝見賞」募集のご案内

当財団は、2008年に設立者の名前を冠した「山縣勝見賞」を創設し、国民生活に重要な役割を果たしている海運を中心とする海事交通文化の研究及び普及・発展に貢献された方々を顕彰し、その研究成果を対象として表彰する制度を発足しましたが、この度も「2025年山縣勝見賞」への応募を以下の通り受け付けます。

・・・・・・・・募集要領・・・・・・・・

1. 募集対象分野：海運、物流、港湾、造船、海上保険及びその周辺分野をテーマとする著作（共著も可）、論文ならびに業績
2. 募集開始日：2025年3月3日（月）
3. 応募締切日：2025年4月30日（水）（当日の消印有効）
4. 賞の種類及び対象：
 - ① 著作賞 海事関係の単著又は共著で、2022年1月1日から2024年12月31日までの間に発表されたもの。
 - ② 論文賞 海事関係論文で、上記と同期間に発表されたもの。
 - ③ 功労賞 海事交通文化の発展に顕著な業績のあった個人。特にその業績の対象期間は問わない。
 - ④ 特別賞 上記三賞に匹敵する功績が認められる個人または法人ならびにその事業で、例えば、海事交通文化の発展に寄与する各種媒体（著作、絵画、映像、構造物等）の制作やイベント（研究/教育/広報/振興/展示/公開活動等）の企画・運営等につき、顕著な業績のあった者。

なお、過去に、山縣勝見賞、或いは、他の学会又は団体等が運営する賞を受賞している場合でも受賞の資格を有するものとします。
5. 賞金：各賞とも20万円
6. 応募手続：上記①・②の応募は、個人・団体の推薦または自薦によるものとします。
③・④は、推薦のみによるものとします。
応募者（推薦者/申請者）は、当財団宛所定の推薦/申請書（①・②用と③・④用の2種類のフォームがあります。Excelフォームが必要な方はご連絡下さい）に推薦/申請理由書ならびに当該著書・論文コピーを1部添付のうえ提出して下さい（著書は後日返却可能）。
7. 受賞者の発表：受賞者の氏名等は、2025年6月に当財団のホームページ、その他海事関連のメディアを通じて発表します。
なお、受賞者への贈呈式は2025年7月21日（月・祝）の「海の日」の前後に行います。

以上

3. 2025 年度 補助金助成申請のご案内

当財団は、(1) 海事交通文化の普及・発展に貢献する事業（以下 海事普及事業 という）、及び (2) 海事に関する研究活動（以下 海事研究活動 という）への支援・助成活動を行って参りましたが、2025 年度につきましても以下の通り募集いたします。

・・・・・・・・募集要領 (1) 海事普及事業への助成用・・・・・・・・

1. 募集対象：海運、物流、港湾、造船、海上保険及びその周辺分野をテーマとする事業への助成・協力の助成・協力
2. 募集開始日：2025 年 1 月 6 日（月）
3. 応募締切日：2025 年 2 月 28 日（金）（当日の消印有効）
4. 申請のための条件：
 - (1) 2025 年 4 月から 2026 年 3 月までに実施する事業であること。
 - (2) 収益を目的とする事業でなく、海事交通文化の普及・発展に貢献し、または貢献しようとする事業であること。
 - (3) 2025 年 2 月までに実施したことのある事業の場合は、その実績が一定の評価を得ていること。また、これから実施しようとする事業の場合は、当該事業を実施するための実態的な人材・知見が整っていることが説明され、事業目的が明確に示されていること。
 - (4) 事業の経費のうち、当該事業の実施のために直接必要な経費（以下、直接経費という）を対象とする。一方、当該事業を含む申請者の活動全般に包括的に必要な経費は対象外とする。例えば、機器・図書購入費、人件費、学会等参加費、交通費、宿泊費等は、直接経費と判断される場合のみ対象とする。
 - (5) 補助金を 2026 年 3 月までに使い切れないことが判明した場合は、申請以外の用途に流用することなく、2026 年 3 月までに当財団に差額を返金すること。
 - (6) 補助金を利用して活動した後、「補助金に係わる収支及び活動報告書」（海事普及事業への助成用）を、遅くとも 2026 年 4 月までに提出すること。
 - (7) 事業の成果について発表する場合は、当財団の補助金による事業である旨の記載を行うこと。
5. 申請金額の目安：1 年間の海事普及事業への助成承認実績（過去 3 年間（2022-2024）の平均）は、7 件、170 万円であり、1 件当たりの平均助成額は約 24 万円となる。
6. 申請手続：補助金助成申請書の提出、または寄附金申込手続きの実行による。
7. 審査結果の発表：助成審査委員会（2025 年 3 月上旬開催予定）にて審査し、理事会（2025 年 3 月中～下旬開催予定）に答申。結果は 2025 年 3 月末日までに申請者宛連絡する。
8. 補助金の振込：申請者の請求書又は寄附金受入通知（金額、目的、振込口座、名義、振込希望年月日を記載）に対して行う。

以上

・・・・・・・・募集要領 (2) 海事研究活動への助成用・・・・・・・・

1. 募集対象：海運、物流、港湾、造船、海上保険及びその周辺分野をテーマとする研究活動への助成・協力
2. 募集開始日：2025年1月6日（月）
3. 応募締切日：2025年2月28日（金）（当日の消印有効）
4. 申請のための条件
 - (1) 2025年4月から2026年3月までに実施する研究活動であること
 - (2) 研究活動の経費のうち、当該研究活動の実施のために直接必要な経費（以下、直接経費という）を対象とする。一方、当該研究活動を含む申請者の活動全般に包括的に必要な経費は対象外とする。例えば、機器・図書の購入費、人件費、学会等参加費、交通費、宿泊費等は、直接経費と判断される場合のみ対象とする。
 - (3) 補助金を2026年3月までに使い切れないことが判明した場合は、申請以外の用途に流用することなく、2026年3月までに当財団に差額を返金すること。
 - (4) 申請者の所属する大学等が当該補助金に係る会計処理を担当し、その事務経費の支払に補助金の一部を充当したいとの申し出があるときは協議に応じる。
 - (5) 補助金を利用して活動した後、「補助金に係わる収支及び活動報告書」（海事研究活動への助成用）及び「研究成果報告書」（A4 フォームにより10ページ以上）を、遅くとも2026年4月までに提出すること。
 - (6) 研究活動の成果について発表する場合は、当財団の補助金による研究活動である旨の記載を行うこと。
5. 申請金額の目安：1年間の海事研究活動への助成承認実績（過去3年間（2022-2024）の平均）は、3件、58万円であり、1件当たりの平均助成額は約19万円となる。
6. 申請手続：補助金助成申請書提出、または寄附金申込手続きの実行による。
7. 審査結果の発表：助成審査委員会（2025年3月上旬開催予定）にて審査し、理事会（2025年3月中～下旬開催予定）に答申。結果は2025年3月末日までに申請者宛連絡する。
8. 補助金の振込：申請者の請求書又は寄附金受入通知（金額、目的、振込口座、名義、振込希望年月日を記載）に対して行う。

以上

4. 「2024年 山縣勝見賞」の結果のご報告

「2024年山縣勝見賞」の受賞者を次の通り決定しました。
受賞者略歴、及び授賞理由につきましては以下の通りです。(敬称略)
(受賞者略歴は受賞時点のものです。)

記

≪著作賞≫

根川 幸男 (ねがわ さちお) 著

『移民船から世界をみる 航路体験をめぐる日本近代史』

(法政大学出版局、2023年8月刊)

受賞者略歴

1963年大阪府生まれ。サンパウロ大学哲学・文学・人間科学部大学院修士課程修了。博士(学術)(総合研究大学院大学)。専門は移植民史。ブラジリア大学文学部准教授を経て、現在、国際日本文化研究センター特定研究員。同志社大学、滋賀県立大学、広島大学で兼任講師。主要著書に『ブラジル日系移民の教育史』(みすず書房、2016年)ほか。

授賞理由

移民船の船旅という観点からの考察は、独創性があり乗船体験の紹介も珍しい。海洋動物の出会い、食事にまつわること、船内の揉め事など、飾らない日常が読み取れる。また、歴史的背景、写真、資料を添えることで記述が引き立っている。まさにわが国の近現代史の1側面であり、その歴史において船舶が果たした役割は指摘して余りあるものであり、本書はそのことを改めて気づかせてくれる好著として評価できる。

≪著作賞≫

松尾 俊彦 (まつお としひこ) 著

『日本の内航海運の研究』(晃洋書房、2023年12月刊)

受賞者略歴

1955年広島県生まれ。1976年広島商船高等専門学校航海学科卒業。1980年東京商船大学商船学部航海学科卒業。2002年東京商船大学大学院商船学研究科博士後期課程修了、博士(工学)。現在、大阪商業大学総合経営学部教授。主要著者に『モーダルシフトと内航海運』(共著、海文堂出版、2020年)ほか。

授賞理由

外航の海運と比較すると、相対的に研究が少ない内航海運において、いろいろな切り口から、問題の本質を考察し、体系的かつ平易に整理されており理解しやすい構成になっている。現在の内航海運の課題である高齢化、働き方改革による船員不足の加速などを中心に論じられており内航海運の歴史をふまえた記述には説得力がある。学術的価値があるとともに、よくまとめ上げられた好著

として評価できる。

〈論文賞〉

該当者なし

〈功労賞〉

高田 富夫氏（たかだ とみお）（流通経済大学名誉教授）

受賞者略歴

1971年早稲田大学第一商学部卒業。1973年 早稲田大学大学院商学研究科修士課程修了。1976年 早稲田大学大学院商学研究科博士課程単位取得退学。1978年 名古屋学院大学経済学部専任講師。1997年 早稲田大学博士（商学）。2000年 流通経済大学流通情報学部教授を経て、現在、流通経済大学名誉教授。2015年～2023年（一財）山縣記念財団理事。主要著書に『海運産業の成長分析』（晃洋書房 1996年）、『ロジスティクス管理の方法』（山縣記念財団、2017年）ほか。

授賞理由

長年にわたり、学術面・公益面で、海運、物流、ロジスティクス分野の発展に多大なる貢献をされたことは功労賞に値する。

〈特別賞〉

堀川 恵子氏（ほりかわ けいこ）（ジャーナリスト、ノンフィクション作家）

受賞者略歴

1992年広島大学総合科学部卒業。広島テレビ放送にて報道記者、ディレクターを兼務。2004年同報道部デスクを最後に退社、東京にて番組制作にたずさわる。読売新聞社・読書委員（2022年～2023年）、広島大学特別招聘（しょうへい）（しょうへい）教授。「第23回司馬遼太郎賞」（『狼の義 新 犬養木堂伝』〈林新氏と共著〉に対して）「第1回城山三郎賞」（『教誨師』に対して）、「第48回大佛次郎賞」（下記作品に対して）をはじめ、数々の作品に対して文学賞等を受賞している。

授賞理由

『暁の宇品 陸軍船舶司令官たちのヒロシマ』（講談社、2021年7月刊）は、日本にとっての船舶の重要性に注目し、シーレーンの安全と船舶による輸送力の確保が、平時にも戦時でも決して欠けてはならないことを伝えるために、太平洋戦争開始前に、広島・宇品の陸軍船舶司令官であった田尻昌次中將の膨大な手記をはじめとした資料や聞き取り調査を元に著した渾身の力作であり、この本を通じての船舶の重要性を伝える講演活動も含め、特別賞に値する。

以 上

5. 2024 年度 補助金助成のご報告

2024 年度当財団補助金の助成先と助成に係わる事業名を公表致します。

なお、諸般の事情から金額の公表は差し控えます。ご了承のほどお願いします。(敬称略)

・公益社団法人日本海洋少年団連盟

「褒状山縣賞」授与事業

「特に優秀な団員又は卒団後も引続き団員の指導等に当たっている指導の顕彰、知識の更なる向上とモチベーションの昂揚を図り、人材の確保と海洋少年団活動の更なる活力向上を図ること」を目的に、同連盟第3代会長で、山縣記念財団創設者でもある山縣勝見の名を冠して2010年度創設され、授与式には当財団理事長が出席しています。

「我ら海の子展」事業

1973年以来毎年開催されている「船、海や船で働く人、海の環境保全や景色など」をテーマにした児童絵画コンクールで、未就学児・小学生に加え、2016年度からは中学生も対象に加わり、2024年度は全国の中学生、小学生、幼児から「私の海」をテーマにした絵画2,852点の応募がありました。そのうち、国土交通大臣賞3作品(中学生の部、小学生高学年、低学年以下の部)はじめ、主催者、後援者、個人審査員による特別賞、金賞、銀賞の合計56作品が決まりました。当財団からは「山縣記念財団理事長賞」を贈呈しています。

カヌー一等海上資機材整備事業

カヌーやSUP等の海上資機材は、海洋少年団の活動の幅を低年齢層や地域の少年少女等に広げるのに有効との趣旨に賛同し、それらインフラの整備を支援しています。

・東京海洋大学海事普及会 「海と船の教室」

目的：下記の3つを目指す長期的なプロジェクト

- ・暮らしを支える海事産業について関心を持ってもらう。
- ・日本が海洋国であることを理解してもらう。
- ・将来の進路選択や職業選択に海事産業を加えてもらう。

・NPO 法人 故郷の海を愛する会 海から始まる物語 IN 2024

主に三重県内に在住する小中学生を対象に、故郷の海を愛する心を育て、将来海事関係に興味を持つような事業を行い、子供たちの健全な育成に寄与するために、体験乗船、港や船内などの見学会、講演会などを実施。

・(公財)帆船日本丸記念財団(横浜みなと博物館)

企画展「横浜ベイブリッジと鶴見つばさ橋 港を支える長大橋」

(会期：2024年9月14日(土)～11月10日(日))に助成。

- ・ 東京海洋大学 明治丸海事ミュージアム
「明治丸 150 年」にかかる第 20 回明治丸シンポジウム及び特別展示に助成。
- ・ 内航海運研究会
内航海運研究会の開催一船員の働き方改革とデジタル化への対応について。
- ・ 村田奈々子 （東洋大学文学部史学科教授）
ギリシア難民を救済した日本船（1922 年）の歴史的研究。
- ・ 梶尾良太 （大阪大学大学院文学研究科後期博士課程）
陸運転移政策における大陸中継輸送に関する研究。
- ・ 湯地敏史 （宮崎大学教育学部教授）
大規模災害時における不断の教育を実現する船舶活用と船上での防災教育の検証。
- ・ 原田峻平 （名古屋市立大学データサイエンス学部准教授）
退役船を活用した海事文化振興の取り組みに関する調査一南極観測船ふじの事例一。

以 上

2025年 月 日

一般財団法人 山縣記念財団

理事長 郷古 達也 殿

年報掲載論文等執筆申請書

下記の内容にて『海事交通研究』（年報）2025年第74集に寄稿したく、申請致します。

記

1. 執筆者氏名

2. 所属

3. 連絡先

住所: 〒 -

TEL: () - FAX: () -

E-mail: @

4. 執筆希望論題

「 」

5. 申請のカテゴリー

研究論文（査読付き） 海事関連レポート（査読対象外） ←いずれかに✓を入れる

6. 執筆の趣旨・概要（300字～500字程度）

7. その他

1) 寄稿の際は、5～10行のアブストラクト（要旨）ならびに5個以内のキーワードを文頭に記載する。

2) 謝辞は記載しない。

以 上

山縣勝見賞（①著作賞、②論文賞）推薦/申請書

（推薦/申請年月日） 2025年 月 日

一般財団法人 山縣記念財団

理事長 郷古 達也 殿

受賞対象内容	賞の種類	①著作賞 ②論文賞 (該当分に○をつけて下さい。③功労賞・④特別賞は、別フォームをご利用ください。)		
	a. 著作（書籍） 又は論文名			
	c. 論文賞の場合の 種別	学位取得論文（博士/修士）/左記以外（掲載誌：_____）		
	d. 発行者 (学位論文の場合は大学名) (フリガナ)	e. 発行/発表年月 年 月 (学位論文の場合は学位取得年月)		
	f-1 著者氏名 (フリガナ)	g-1 勤務先（役職）/職業・連絡先		
	f-2 共著者氏名 (フリガナ)	g-2 勤務先（役職）/職業・連絡先		
	f-3 共著者氏名 (フリガナ)	g-3 勤務先（役職）/職業・連絡先		
	推薦/申請理由	(別紙又は裏面に記載してください。)		

記載箇所：①は b 以外全項目、②は全項目を記載して下さい。なお、本件についての今後の連絡先を上記 f-1～3 の方々に指定する場合はその方々の連絡先（メールアドレス等）を併せてご記入ください。

- 添付物： 1. 推薦/申請理由書
2. (著作賞の場合) 対象書籍 (□返却希望 □寄贈可 いずれかに✓を入れてください)
3. (論文賞の場合) (1) 学位論文の場合は本文・要旨・審査結果報告 (2) その他の論文の場合は本文または掲載サイトの URL をお知らせください

上記の通り、「山縣勝見賞」に推薦/申請します。

(※推薦/申請 (=自薦) のどちらかに○印を付けて下さい。)

氏名 (団体の場合は、団体名・役職・個人名)

住所 〒 -

電話番号 () -

メールアドレス @

勤務先 (役職) または職業

以上

山縣勝見賞（③功労賞、④特別賞）推薦書

（推薦年月日） 2025年 月 日

一般財団法人 山縣記念財団
理事長 郷古 達也 殿

受賞対象内容	賞の種類	③功労賞 ④特別賞 (該当分に○をつけて下さい。①著作賞・②論文賞は、別フォームをご利用ください。)	
	a. 受賞対象の事業/ 功績		
	b. 上記事業/ 功績の種類 (任意記載)	③長年に亘る研究/教育等活動 ④-1 海事交通文化の発展に寄与する各種媒体（著作、絵画、映像、 構造物等）の制作に寄与。 ④-2 海事交通文化のイベント（研究/教育/広報/振興/展示/公開活動 等）の企画・運営等につき貢献。 ④-3 その他（)	
	(フリガナ)		d-1 勤務先（役職）/職業・連絡先
	c-1 氏名		
	(フリガナ)		d-2 勤務先（役職）/職業・連絡先
	c-2 氏名 (共同受賞候補者)		
	(フリガナ)		d-3 勤務先（役職）/職業・連絡先
c-3 氏名 (共同受賞候補者)			
推薦/申請理由	(別紙又は裏面に記載してください。)		

記載箇所：③④とも全項目が記載対象です（bは任意記載）。

添付物： 1. 推薦理由書・関連資料（事業/功績の概要、受賞候補者の略歴等）
2. （著作や媒体が対象の場合）対象書籍・媒体（返却希望 寄贈可 その他）
いずれかに✓を入れてください

上記の通り、「山縣勝見賞」に推薦します。

（※ ③功労賞、④特別賞は推薦のみとし、申請（＝自薦）は受け付けません。

推薦者氏名（団体の場合は、団体名・役職・個人名）

住所 〒 -

電話番号 () -

メールアドレス @

勤務先（役職）または職業

以上

2025年 月 日

一般財団法人 山縣記念財団

理事長 郷古 達也 殿

(申請者)

住所

氏名 (団体の場合は団体名と代表者名)

補助金助成申請書 (1) 海事普及事業への助成用

下記の通り、海事交通文化の発展に貢献し、または貢献しようとする事業に対する助成について申請致します。

記

- 補助金助成を申請する事業名
- 補助金の申請額 円
- 補助金の必要時期 (当財団よりの振込希望時期): 年 月
- 事業の目的・申請理由 (1~1 ページ半程度で記述してください。)

5. 本事業資金（総額）の調達・使途案

（※本事業資金の調達予定として、本補助金申請額及び他の調達方法、使途予定として、具体的使途・金額を記入してください。）

調達予定			使途予定		
年月	内容	金額（万円）	年月	内容	金額（万円）
	本補助金				
合 計			合 計		

6. 以下の「申請のための条件」について了承した上で、本件を申請します。

（各項目の□に、了承の場合は✓を入れてください。）

- 2025年4月から2026年3月までに実施する事業であること。
収益を目的とする事業でなく、海事交通文化の普及・発展に貢献し、または貢献しようとする事業であること。
- 2025年2月までに実施したことのある事業の場合、その実績が一定の評価を得ていること。
また、これから実施しようとする事業の場合は、当該事業を実施するための実態的な人材・知見が整っていることが説明され、事業目的が明確に示されていること。
- 事業の経費のうち、当該事業の実施のために直接必要な経費を対象とすること。
- 補助金を2026年3月までに使い切れないことが判明した場合は、申請以外の使途に流用することなく、2026年3月まで当財団に差額を返金すること。
- 補助金を利用して活動した後、「補助金に係わる収支及び活動報告書」（海事普及事業への助成用）を、遅くとも2026年4月までに提出すること。
- 事業の成果について発表する場合は、当財団の補助金による事業である旨の記載を行うこと。

7. その他参考事項

（申請者事業概要についてウェブサイト等で公表している場合は、URLをご記入ください。）

8. 本件担当者名・連絡先住所及び電話・E-mail など

以 上

2025年 月 日

一般財団法人 山縣記念財団

理事長 郷古 達也 殿

(申請者)

住所

氏名 (団体の場合は団体名と代表者名)

補助金助成申請書 (2) 海事研究活動への助成用

下記の通り、海事に関する研究活動に対する助成について申請致します。

記

- 補助金助成を申請する研究活動名
- 補助金の申請額 円
- 補助金の必要時期 (当財団よりの振込希望時期): 年 月
- 研究活動の目的・申請理由 (1~1 ページ半程度で記述してください。)

5. 本研究活動資金（総額）の調達・使途案

（※本研究活動資金の調達予定として、本補助金申請額及び他の調達方法、使途予定として、
具体的使途・金額を記入してください。）

調達予定			使途予定		
年月	内容	金額（万円）	年月	内容	金額（万円）
	本補助金				
合 計			合 計		

6. 以下の「申請のための条件」について了承した上で、本件を申請します。

（各項目の□に、了承の場合は✓を入れてください。）

- 2025年4月から2026年3月までに実施する研究活動であること。
- 研究活動の経費のうち、当該研究活動の実施のために直接必要な経費を対象とすること。
- 補助金を2026年3月までに使い切れないことが判明した場合は、申請以外の使途に流用することなく、2026年3月まで当財団に差額を返金すること。
- 申請者の所属する大学等が当該補助金に係る会計処理を担当し、その事務経費を補助金の一部から充当したいとの申し出があるときは協議に応じる。
- 補助金を利用して活動した後、「補助金に係わる収支及び活動報告書」（海事研究活動への助成用）及び「研究成果報告書」（A4フォームにより10ページ以上）を遅くとも2026年4月までに提出すること。
- 研究活動の成果について発表する場合は、当財団の補助金による研究活動である旨の記載を行うこと。

7. その他参考事項

（申請者研究活動概要についてウェブサイト等で公表している場合は、URLをご記入ください。）

8. 本件担当者名・連絡先住所及び電話・E-mail など

以 上